人 65 地域の美化にひと役

海老ケ瀬（えびがせ）福次（ふくじ）さん・キヨさん
寺地本村／72歳・66歳

道ばたに花が咲いていたり、ゴミが捨てられていなかったりするのはごく自然なことだ。でも、自然なことをしているだれかが必ずいる。例えば、今月号で紹介する寺地中の海老ケ瀬福次さん、キヨさんご夫婦。

お二人は自宅前の町道と排水路のわずかの間に花を植えている。排水路のゴミや空き缶を拾っている。

「ただそれだけなんですよ。あたり前のことをしているだけで、たいしたことではないんですよ」と口をそろえて言うものの……。

始めたのは二年ほど前。キヨさんは、堀（排水路）があんまり汚れているんでみばが悪いと思い、シャベルを持って排水路に入った。

「ゴミや空き缶がいっぱいで、草も生え放題でした」。泥を上げそうじをした。

続けて福次さん「おととしの末に小針線が開通（一部）して信号機が出来ましたでしょ。信号待ちしている車から、空き缶がポイッと捨てられるようなんです」。今年の春にはわずか五十メートルぐらいでセメント袋2つ分の空き缶を拾ったという。「ひと冬だけですからね」。

花を植えようと言ったのもキヨさん。「ゴミを投げる人も減るのではと思って」。もともと花が好き。アヤメやききょう、しゃくやくなどを植えた。「みんな家にある花の余りなんです」とキヨさん。

水や草取りなどの管理はもっぱら福次さんがしている。「私は何年も前に引退して暇ですから……」。

ところで、福次さんは船乗りだった。二十数年間、マグロ漁船に乗って、南太平洋、インド洋、ハワイなど各地へ行った。「外国の街はきれいなんですよ。ニュージーランドの首都ウエリントンなんかは素晴らしい。花壇や街路樹があってね。日本ももっと街の環境や美化を考えるべきですよ」と言う福次さん。どうやらその影響もあるようだ。

「外国の人は『公徳心』がありますね。立ち小便も絶対しない。我々は、見習わなければいけないですね」とも。

お二人がこの地に家を建てたのは昭和三十九年。まだ宅地化が進んでいない。

「何もなかったですよ。家が建ち、道路や排水路などはよくなりましたけど、それで住みやすい街かというと、十分ではないですよ」とキヨさん。

暮らしやすいまちに、小さなことでもできることは自分たちで、取材を終えそう感じた。（ig）

海老ケ瀬福次さん・キヨさんご夫婦。自分たちできれいにした排水路の前で。船乗りだった福次さんは「陸（おか）のことはさっぱりで……」、と言いながらもキヨさんの花壇づくりを手伝う。

ほんの一冊

井上ひさしのコメ講座

（岩波書店・310円）

最近、日本の農業というと、新聞・テレビでは「日本の米は高い」とか「安いアメリカ米の輸入自由化を」ということが盛んに報道されています。でも本当に日本の米は高いのだろうか、アメリカ米の輸入自由化をして大丈夫なのだろうかという疑問も湧きます。

この小冊子では、アメリカ米も日本以上の補助金づけであるとか、世界の米は定期的に大不作になるといった例をまじえ、日本の米は決して高くないし、輸入自由化は日本にとって危険であるということを教えてくれます。

農業に携わっている人も、そうでない人も、食べなければ生きていけないという点では同じです。できるだけ多くの皆さんに読んでいただきたい一冊です。

〈人の動き〉

7月末日現在	（前月比）	〔前年同月比〕
人口	23,165 (+ 4)	〔+150〕
男	11,347 (+ 6)	〔+ 32〕
女	11,818 (- 2)	〔+118〕
世帯	6,159 (+ 2)	〔+ 71〕

7月1日～末日

出生	18	転入	56
婚姻	4	転出	60
死亡	10		

●来月号の表紙

十人に一人がお年寄り（六十五歳以上）の今日 **高齢化社会の諸問題** を取り上げます。ふるさと創生一億円は、住民から成る委員会が今月五日に開かれる予定ですのでこちらもまとまり次第お知らせします。今後の予定は観光物産センターに絡んだ **観光** や現在集計中の **町民アンケート** を特集する予定ですのでどんどんご意見を、役場広報係へお寄せください。ハガキでも電話でも構いません。

編集室

県内を流れるもう一つの大河・阿賀野川。そこで「阿賀に生きる」というドキュメンタリー映画が撮影中である。監督の佐藤誠さんは言う。「川に生きてきた人々は、川下で煮たきに阿賀の水を使っているのだから、とわざわざ船を下り陸に上がって小便をするほど水を大切にしてきた。阿賀の川に限らず、川は私たちの暮らしからどんどん遠去かっていく。かって川漁でにぎわっていた河原も人影もまばらになり、子供たちも川で遊ばなくなった」。いつから 私たちは川は怖いもの、水はよごれを流すもの、と思い始めてしまったのだろうか。▼パリの下水道はルイ王朝の時代に造られ始め、今も続いている。▼下水道事業は黒埼町の行政を試している。ig

「使う前よりきれいに」。よく公民館などの集会施設に張ってある張り紙の文句だ。建物であれ道具であれ人間が使えば汚れる。しかし、何度も使うものはちゃんときれいにして、それこそ「使う前よりきれいに」してきた。水が豊富（過ぎて洪水がしょっちゅう起きた）な日本だが、そろそろ使った後の水をきれいにすることを考えないといけない時期なのでは。まずは身のまわりの水の汚れ具合に注意を払ってみてください。（岩）

平成元年九月一日発行（毎月一日発行）三二号 発行／黒埼町役場 〒九五〇－二一 新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一 電話〇二五－三七七－三二〇一 編集／企画開発課（担当・広報統計係） 印刷／㈱博進堂 経費一部四五円